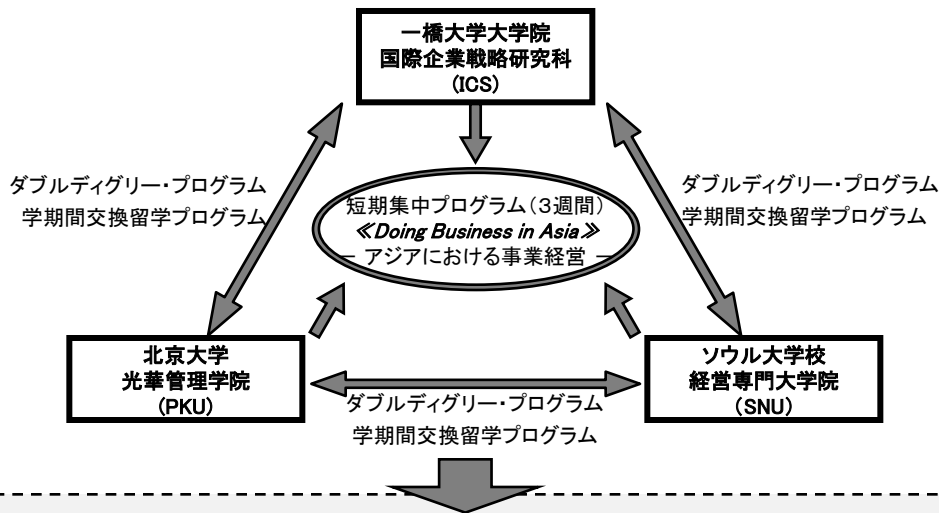


大学の世界展開力強化事業(平成28年度採択) 一橋大学 取組概要

【アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ(アドバンスト)】(選定年度28年度・(タイプA-①CAMPUS Asia))

【事業の概要】



教育研究支援

- ◆ BEST Alliance Symposium (BESTシンポジウム): 年1度、各校の持ち回りにより開催。
- ◆ Joint Research: 各校の教員が協力してリサーチを行い、BESTシンポジウムにおいて報告、発表。成果をカリキュラム開発等に活用。
- ◆ 就職支援: インターンシップ等のサポートを提供。
- ◆ ビジネスリーダーによるレクチャー: 適宜、各界のリーダーに登壇を依頼し、学生との質疑応答等インタラクティブなディスカッションを実施。

運営体制

- 運営委員会: 各大学研究科長・担当教員及び事務職員が集まり年2度開催。
- 諮問評価システム: 各国のビジネスリーダーや政府関係者等にプログラムに対する意見を聴取。
- ABLP教員ディレクター: 各大学に1名を配置。
- AABLP専門事務職員: 英語に堪能なプロフェッショナルスタッフを配置。

【交流プログラムの概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学校の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象とした**ダブルディグリー・プログラム**、**学期間交換留学プログラム**、**短期集中プログラム**及び3大学の教員による**Joint Research**を実施する。各活動の成果は、毎年3大学合同で開催するシンポジウムにおいて報告、発表される。

【本事業で養成する人材像】

広い視野から課題を発見し、深い専門知識に基づき論理的に考え、的確に判断し課題解決への道筋を見出す力、自らの考えを他者にも分かりやすく伝える力、そして、世界の多様な国や地域の人々とも相互に理解し、尊重し、協働する柔軟性をもつ“将来グローバルに活躍できる人材”を育成する。

“将来グローバルに活躍できる人材”とは、**西洋とアジアの良さを融合した新しい経営理論の相互学習を通じて、企業の成長と社会的課題の解決を両立する新しい国家の成長モデルの実行をリードし、世界の発展に貢献し得る「真のグローバルリーダー」**である。

【本事業の特徴】

パイロットプログラムで得た知識・経験を生かし、3大学間のみならず、他アジア地域へも展開する他、オンラインコースの導入拡大や、Web会議システムの利用等によりIT化を推進し、最先端の教育システムの構築を目指す。また、交流プログラムを実施するだけでなく、パイロットプログラム及びアドバンストプログラムで得た知見を、国内の他大学や教育機関と共有し、日本の大学のグローバル化を牽引する。

【交流予定人数】 <タイプA-①>

	H28	H29	H30	H31	H32
日本(J)の受入	C 13	C 13	C 13	C 13	C 13
	K 13	K 13	K 13	K 13	K 13
中国(C)の受入	J 13	J 13	J 13	J 13	J 13
	K 13	K 13	K 13	K 13	K 13
韓国(K)の受入	J 13	J 13	J 13	J 13	J 13
	C 13	C 13	C 13	C 13	C 13

1. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【アジア・ビジネスリーダー・プログラムⅡ(アドバンスト)】(選定年度28年度・(タイプA-①CAMPUS Asia))

■ 交流プログラムの実施状況



〈11月 ソウル大学Study Tourの合同講義後〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

一橋大学からは学期間交換留学プログラムにおいて1名を北京大学に派遣した。また、ダブルディグリー・プログラムにおいて1名をソウル大学校へ派遣した。

○ 外国人留学生の受入

ダブルディグリー・プログラムにおいて北京大学及びソウル大学校から各1名を受け入れ、さらに、ソウル大学校からStudy Tour学生29名を受け入れた。Study Tourでは、プログラムの一部において一橋大学の必修講義を合同で受講する等、大規模な交流を実現することができた。その他、野村證券やイオンといった日本企業の視察も実施し、短期間ながら、日本のビジネスを学ぶための充実したプログラムを提供し、参加したソウル大学校生から高い評価を得た。

<タイプA-①②>

	H28
日本(J)の受入	C 1 K 30
中国(C)の受入	J 1 K 3
韓国(K)の受入	J 1 C 5

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組プロセスの明確化

本事業の基礎となる提携に関する覚書を改定し、11月にソウルにおいて開催されたBEST Symposiumにおいて各校の研究科長が合意した。また、ダブルディグリー・プログラムに関する覚書の改訂も行い、Part-time MBAの受入も可能な基盤を整えた。

他大学への展開

本事業の経験・実績を基に、2016年11月には中国人民大学商学院とのダブルディグリー・プログラムに関する覚書を締結した。本事業以外の提携校との交流も発展させることでさらに知見を重ね、より質の高いプログラムやシステムの構築を目指す。



〈11月 ソウルにおけるBEST Symposium〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

オンライン・コースウェアの活用

新たに導入したオンライン・コースウェアを活用した情報提供を徹底したことにより、派遣中の学生及び受入予定学生に対する明確かつスピーディーな情報提供を推進した。

交流先における説明会実施

提携先において説明会を実施することにより、参加希望学生は派遣前に派遣先担当者とのコンタクトを持ち、よりスムーズなコミュニケーションを図る環境作りを進めた(受入時も同様に学生が本学担当者とコンタクト可能な環境となっている)。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

11月に実施したSNU Study Tourでは、企業訪問時に香港中文大学の交換留学生も参加した他、3月に開催した世界的なビジネススクールのネットワークGlobal Network for Advanced Management(GNAM)加盟校が世界各地で同時開催する短期集中プログラム“Global Network Week”において、一橋大学で受け入れている北京大学のダブルディグリー学生がトルコのKoç Universityプログラムに参加する等、柔軟且つ発展的な交流が進んでいる。

■ 情報の公開、成果の普及

本事業で継続して実施しているダブルディグリー・プログラムを全学的に展開すべく、情報共有を進めている。また、平成29年度に向けて、交流プログラムで得た知見を国内他大学と共有するためのシンポジウムを予定している。

■ グッドプラクティス等

学生交流を推進すべく、北京大学・ソウル大学校に赴き一橋大学の説明会を実施した。ソウル大学校から、初めてダブルディグリー・プログラム参加学生を受入れた。また、Study Tourも積極的に受入れ、ソウル大学校から29名を受け入れた。